

「過疎地人口減を好機に」

静岡文化芸術大 藻谷さん(日本総合研究所 首席研究員)講演



中山間地の将来と課題について話す藻谷さん＝浜松市中区の静岡文化芸術大

浜松市と静岡文化芸術大は20日、中山間地の将来と課題を考えるイベント「まちむらリレーション市民交流会議」を中区の同大

で開いた。「里山資本主義」の著者で日本総合研究所首席研究員の藻谷浩介さんが講演し、過疎地の人口減を好機と捉えて「子育て世代の支援を手厚くすべき」と持論を展開した。

藻谷さんは首都圏の人口増の背景を、若者ではなく高齢者が増えたためとした上で「福祉医療のサービスが多ければ良いというの誤り」と指摘。一方で天竜区を例に、過疎地では若い世代だけでなく高齢者人口

も減少していると現状を説明し、「福祉医療の負担が軽くなる。その分を支援に回せば、移住促進や若者人口の流出の歯止めになるかもしれない」と地域づくりの可能性を示した。

イベントでは学生団体などが市内の中山間地での活動事例も発表した。県立浜松湖北高佐久間分校や同大の学生が放置竹林を生かした灯籠作りや耕作放棄地の再生といった取り組みを発表した。(浜松総局・柿田史雄)